

沖縄県青年海外協力隊を支援する会会報

第14号

〒901-2552 沖縄県浦添市前田1143-1
国際協力機構沖縄国際センター内
tel 098-876-6000 fax 098-876-6014
沖縄県青年海外協力隊を支援する会
発行責任者：事務局長 東江賢次

はいむるぶし

(沖縄八重山地方の方言で南十字星の意 題字：故末次一郎氏)



教室完成式典のテープカット
地方長官、地方教育局長も出席

教室はなく炎天下の中庭での
授業であり、雨天時は中止せざるをえない状況であった。
カタベイで村落開発普及員
として活動している鹿糠説子
さん(那覇市出身)は、屋根の
ある教室をつくり、充実した授
業を行うことが服役者の効率
的な更生と出所後の生活支援

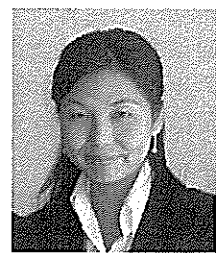
二〇〇八年一月十日、アフリカ南
部にあるマラウイの新聞に「カタベ
イ刑務所 学校のレンガを得る」と
の見出しが出た。記事の内容は「沖
縄県協力隊を支援する会が途上国
の人材育成のために供出した資金
で、協力隊の鹿糠説子さんが、カタ
ベイ刑務所に教室建設のレンガを
贈呈した」と、教室の完成式典を報
道したものだ。
カタベイはマラウイ湖畔に位置
する小さな町。そこにある刑務所
は、識字教育や初等教育などが行わ

Nkhata Bay prison gets school block

Although this is a small project, it helps a lot to us as far as prison education is concerned.
In his remarks, District Commissioner for Nkhata Bay Jack Nkhata said inmates are human beings, hence the need to provide them with quality education as it is their right.
"Everyday prisons are simply reformitory centers. That is why government introduced education in all prisons across the country. The inmates should be made every citizen, including farmers, productive," said Nkhata.
"Let us make full use of this facility because we can benefit a lot from it. Otherwise, an inmate has been put on a ship to go to study in the United Kingdom, it all begins a horrible way like this one here. So let us not let this project...
And for Moses Kwashi, a volunteer teacher at the prison, the two-story structure has significantly eased the prison's on-hand.
"I have 22 students from literacy classes to senior secondary level. This number might increase because of the new building. But now we can breathe a sigh of relief."
The prison has also received donations of exercise and text books, and from Active Aid International, National Initiative for Civil Education and African Child Education Programme.

教室の完成を報じるマラウイの新聞

マラウイの刑務所に教室完成
小さなハートプロジェクト
「屋根のある教室からマラウイの未来を」



鹿糠説子 隊員

トタン板などの資材購入に充てられ、建設にかかる作業には
服役囚が従事し、一月半かけて完成した。現場の工事監督も、
別の刑務所に収監されていた建築士の経験のある囚人が、カ
タベイ刑務所に移送されて担当した。
鹿糠さんは、完成式典で記者のインタビュに「これは小さ
な事業だが、更生教育が行われ続ける限り、大きな役割を果た
すものであると信じる」と語った。
また、鹿糠さんは協力隊を支援する会にあてた手紙で「この
工事には刑務所職員のサービス残業もあった。被援助側の協
力体制の需要さを再認識させられた」と書いた。



工事現場を訪問する鹿糠さん



建設作業に従事する服役囚



屋根作業に取りかかる

に役立つものであるとして、「小さな
ハートプロジェクト」を申請した。
昨年九月に連絡を受けた沖縄県協
力隊を支援する会は、会員に募金を呼
びかけ、二十九万六千円を送金した。
送られた資金は、レンガやセメント、

お知らせ

沖縄県青年海外協力隊を支援する会総会

十月十六日(木) 午後六時~八時三十分

JICA 沖縄国際センターにて

# はいむるぶし

## 協力隊応募促進支援 JOCA沖縄キャラバンが始まる



キャラバンカー

青年海外協力隊への全国の応募者数は減少傾向にある。昨年の募集では、この十年間で初めて応募者数が二千人を下回り、平成十六年度の約半分の数字になった（沖縄県は横ばい）。

この原因について、JICAは①雇用の環境の改善 ②産業構造の変化（IT、サービス産業の台頭）④国際協力活動への参加形態の多様化（NGO）⑤若者の行動意識の変化（内向き志向）などにあると推定している。

協力隊員OBで組織する（社）青年海外協力協会（＝JOCA）は、「わが国の国際貢献の象徴的な存在である協力隊事業の存続にも影響を及ぼしかねない」との危機感から、協力隊への応募を促進するため「全国キャラバン」と銘打って日本のすべて自治体と学校や企業などを訪問して、協力を求めていくこととした。今年三月から専用の広報車で東北地方と九州地方でキャラバン活動を行っている。



総括の善平さん

JOCAはキャラバンのペースを速めるために、沖縄県にも一台の広報車と、三名の専任スタッフを配置するとした。総括責任者に善平朝信さん（元OB会長、支援する会運営委員）が選任され、十月から十一月中旬までに南・北大東村や与

那国町などの離島も含めた県内四一あるすべての市町村を訪問し、協力隊への理解の促進と派遣条例制定など呼びかける計画である。沖縄県の協力隊OB会はこの「キャラバン」に積極的に協力し、沖縄の地方に住むOBらのネットワーキング形成も視野に入れた活動を展開することとした。

全市町村訪問後の十一月二十二日に総括集會として、県立郷土劇場（那覇東町会館内）で映画上映と講演会を予定している。

## 祝 稲嶺恵一会長に琉球新報賞(沖縄振興)

第44回琉球新報賞を、稲嶺恵一会長が沖縄振興功労で受賞。

贈呈式・祝賀会が9月25日にパシフィックホテル沖縄で行われた。受賞のあいさつで稲嶺会長は「私ひとりですらやった仕事は何もない。みんなの協力の“チーム稲嶺”の功績である。感謝、感謝の気持ちでいっぱい」と述べた。



## 祝 平川宗隆さん山羊で学術博士

世界各地を廻り、山羊の研究を続けている平川宗隆さん（支援する会運営委員）に、その成果が認められ、9月19日に鹿児島大学から学術博士の学位が授与された。

平川さんは、県動物愛護センター所長や県中央食肉検査所長（h19.3に定年）を務める傍ら大学院博士課程に籍をおき、論文執筆をしてきた。

沖縄山羊文化振興会長でもある平川さんは、「山羊の餌は人間とは競合しない。これから食糧不足が懸念される地球にとって重要な家畜となる」と山羊の普及に意欲を燃やしている。



フィリピンの人と仲良く山羊料理をほおぼる平川さん（右端）